ブック・デザイン

第1回 「近代デザイン運動」

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
ケルムスコット・プレス：ウィリアム・モリスの印刷工房	ウィリアム・S.ピータースン著 湊典子訳	平凡社	1994	020/35
The works of Geoffrey Chaucer now newly imprinted 別書名 Kelmscott Chaucer		Basilisk Press	1975	F3e/867/1:L

ケルムスコット・プレス

ウィリアム・モリスが1890年に創設した印刷所。中世写本の伝統に対する熱烈な関心を基盤にして、(1)用紙は手漉き(ハンド・メイド)に限る(紙の材料はリネンでなければならない)、(2)簡素地味な活字を用いる、(3)語間の間隔と版面に工夫を凝らすことなどを必須とした印刷工芸の実現を目指した。美的趣味と実用性を結び付けた〈理想の書物〉への夢が自らの手で印刷をという実践につながり、バーン・ジョーンズによるイラスト付きの『チョーサー著作集』などの印刷を手がけた。

出典:【ケルムスコット・プレス】 デジタル版 集英社世界文学大事典 JapanKnowledge ttps://japanknowledge.com

ウィリアム・モリス[1834-1896]

イギリスの工芸家、詩人、思想家。オックスフォード大学に学ぶ。ジョン・ラスキンの思想に触れ、とりわけゴシック建築への関心を深めた。初め建築家を志したが、画家志望に転ずる。1850年代の終わりには広く生活環境の美化を目指すようになり、1861年、モリス・マーシャル・フォークナー商会を設立。室内装飾のいっさいに取り組んだ。1880年代に入ってモリスの教えに刺激された各種工芸家の組織が形成され、近代デザイン運動の発端をつくった。この動きはアーツ・アンド・クラフツ運動とよばれる。
晩年はケルムスコット・プレスを設立、印刷・造本の仕事に没頭し、ここで、ケルムスコット版チョーサーとして知られる『カンタベリー物語』などが印刷・製本された。

出典:【モリス】 日本大百科全書(ニッポニカ) JapanKnowledge https://japanknowledge.com

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
Bauhaus 1919-1933 : workshops for modernity	Barry Bergdoll, Leah Dickerman	Museum of Modern Art	2009	702.3/138:L

バウハウス

1919年、建築家ワルター・グロピウスが構想してドイツ・ワイマールに設立した学校。同地にあった美術学校と工芸学校を合併し、新時代へ向けての工芸、デザイン、建築の刷新を図ろうとした。1933年、閉鎖に追い込まれるまで、工業生産のなかでのデザイン、機能主義に立脚した建築などへの方向づけがバウハウスを拠点にして示された。
1925年には政府の圧迫から閉鎖に至り、デッサウ市の招きで市立バウハウスとして再編。デッサウでは新しい生産方式に基づいたデザインのあり方が追求され、工房の作業は産業界と実際に連携して成果があった。1925年からはバウハウス叢書の刊行が始まり、幅広いデザイン思考の形成に寄与した。
その後バウハウスは1932年にナチスの弾圧でベルリンに地を移したのち、1933年には完全に閉鎖されたが、その精神は亡命した教師、卒業生によって継承。とくにアメリカのデザイン教育に及ぼした影響は著しい。ドイツではバウハウスの卒業生によって1955年にウルム造形大学が開かれ、新たに再出発した。日本のデザイン界もバウハウスから多くを吸収して今日に至っている。

出典:【バウハウス】 日本大百科全書(ニッポニカ)
JapanKnowledge https://japanknowledge.com

モホリ・ナギ[1895-1946]

ハンガリー生まれの画家、彫刻家、デザイナー。ハンガリー語ではモホリ・ナジ。ブダペスト大学で法律を学んだが、第一次世界大戦で負傷したのがきっかけで絵画に転じ、前衛芸術運動、とくにシュプレマティズム、構成主義の洗礼を受けた。1917年ウィーンに出て、翌年ベルリンに移り、1922年のシュトゥルム画廊での展示が注目され、同年グロピウスに推されてバウハウスの教授に迎えられた。抽象絵画、彫刻、建築、写真など多岐にわたる創造活動と指導を行い、『絵画・写真・映画』(1925)、『材料から建築へ』(1929)を「バウハウス叢書」として刊行した。
バウハウスを去ってからはベルリン、アムステルダム、ロンドンなどで舞台美術、ポスター、映画などを含む創作活動を行い、1937年に渡米。1938年シカゴにデザイン研究所を設立、デザイン、ディスプレー、写真など多彩な仕事を展開、同地に没した。

出典:【モホリ・ナギ】 日本大百科全書(ニッポニカ)
JapanKnowledge
https://japanknowledge.com

Defining Russian graphic arts : from Diaghilev to Stalin, 1898-1934	edited by Alla Rosenfeld	Rutgers University Press	1999	727/46

構成主義

20世紀の絵画、彫刻、写真、デザイン、建築における前衛的傾向のひとつ。1917年の革命に続くユートピア的雰囲気のなかで、新しい芸術的環境を生みだそうとする一連の動き、いわゆるロシア構成主義が誕生した。狭義にはロシア構成主義を意味する他方、1922年から1920年代の末にかけて、主としてドイツで進展したより広範な国際的な潮流を指すことばとして用いられ、さらに一般的には、線や面といった幾何学的な形態によって「構成される」抽象美術全般を指す場合もある。
ロシアに限っていえば、1920年に設立された「インフーク ИНХУК/INHUK(芸術文化研究所)」のメンバーが、1921年に「構成主義の作業グループ」を結成し、活動が開始された。産業デザインを目指した構成主義ではあったが、その前衛的なデザインは、革命、内戦で疲弊した社会では容易に実用化されるものではなかった。このため、構成主義の仕事の中心は、グラフィック・デザインや写真などの分野に集中していき、大胆なタイポグラフィと抽象的なデザイン、写真を組み合わせたフォトモンタージュが特徴となった。

出典:【構成主義】 日本大百科全書(ニッポニカ)
JapanKnowledge https://japanknowledge.com

リシツキー[1890-1941]

ソ連の画家、建築家。雅号はエリ・リシツキー(El' Lisitskiy)。1909～14年ドイツのダルムシュタット工科大学に学び、革命後は一時シャガールが校長を務めた美術学校で教えた。1921～25年ドイツおよびスイスに滞在、オランダの「デ・ステイル」グループのメンバーとなった。1920年代にはシュプレマティズムの影響の下、一連の宣伝ポスターを制作した。建築の分野でも活躍し、数々の実験的な設計図を発表したほか、紡績会館(1925)、プラウダ新聞社のコンビナート(1930)などの作品が有名。また書籍の挿絵や装幀、フォトモンタージュなど幅広い活躍を行い、モスクワに没。

出典:【リシツキー】 日本大百科全書(ニッポニカ)
JapanKnowledge
https://japanknowledge.com

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
チェコ・アヴァンギャルド：ブックデザインにみる文芸運動小史	西野嘉章著	平凡社	2006	702.3/55
【電子ブック】ビジュアルデザイン論	リッカルド・ファルチネッリ著 清水玲奈訳	クロスメディア・パブリッシング	2021	収録データベース KinoDen
【電子ブック】近代デザインの美学	高安啓介著	みすず書房	2015	収録データベース KinoDen
【電子ブック】葉蘭をめぐる冒険 イギリス文化・文学論	川端康雄著	みすず書房	2013	収録データベース KinoDen
【電子ブック】Arts and Crafts Movement	Thomas James Cobden-Sanderson	Hammersmith Publishing Society	1905	収録データベース Making of the Modern World, Part II: 1851–1914

デヴィエトスィル

1920年プラハのカフェで旗揚げされた新興芸術運動のグループ。アートを高尚なものと考える伝統的な芸術観に見切りをつけ、建築、グラフィック、工業製品など日常のあらゆる側面に、美的な洗練と、詩的な情趣をもたらそうとした。そうした成果をもっともよく示したのが本やポスターなどの印刷物である。グループを率いたカレル・タイゲが創案した機能主義的なタイポグラフィと構成主義的なレイアウトは、バウハウスの教程にも採用された。国外の前衛芸術運動と積極的に交流し、生活とアートの詩的な統合を目指す、チェコ独自の美学「ポエティズム」の誕生を促した。

参考:『チェコ・アヴァンギャルド：ブックデザインにみる文芸運動小史』
西野嘉章著 平凡社 2006 702.3/55

カレル・タイゲ[1900-1951]

チェコの芸術理論家、批評家、編集者、出版人。アヴァンギャルド芸術運動の推進者、組織者であり、芸術集団〈デヴィエトスィル〉の創立者の一人。『デヴィエトスィル誌(ReD)』をはじめ『時代(ドバ)』『ソヴィエトの地』など進歩的な芸術や文化誌の編集者を務め、『ポエティズム宣言』(1928)の起草者の一人となって、シュルレアリスムの推進者となった。また建築における構成主義の批評家でもある。
幅の広い活動を示す数多くの著作で知られ、西欧やソヴィエトのアヴァンギャルド芸術の様子を伝える『建築と詩』(1927)、『ソヴィエト文化』(1927)などもある。

出典:【タイゲ カレル】 デジタル版 集英社世界文学大事典
JapanKnowledge
https://japanknowledge.com

【電子ブックの利用方法】

●自宅など学外のPCから電子ブックを利用するには、
「VPN接続(Any Connect)」が必要です。

・インストールはこちらから　・VPNについてよくある質問

●本の同時アクセス上限を超えた場合は、
時間をおいて再度アクセスしてください。

市ケ谷図書館 キャラクター
ぶっくま

ブック・デザイン

第2回「日本のブック・デザイナー」

ブック・デザイナー	資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
和田誠	装幀時代	臼田捷治著	晶文社	1999	022/26
田村義也	背文字が呼んでいる：編集装丁家田村義也の仕事	沢田雄一編	武蔵野美術大学美術資料図書館	2008	022/58
横尾忠則	横尾忠則全装幀集：1957-2012	横尾忠則著	パイインターナショナル	2013	022/65
菊地信義	菊地信義の装幀：1997～2013	菊地信義著	集英社	2014	022/66

和田誠[1936-2019]

イラストレーター。装幀家、エッセイスト、翻訳家、映画監督、作詞・作曲家と、さまざまな顔を持つ。1977年5月から描き続けた「週刊文春」（文芸春秋）の表紙絵は、2017年7月20日号で2000枚に達した。

出典：【和田誠】ヨミダス歴史館　現代人名録　https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/

田村義也[1923-2003]

東京都出身。1948年岩波書店入社。「世界」「文学」の編集長をつとめる傍ら、装幀家としても活躍。独特の色遣いと、手作り感のある文字遣いは“田村流”として知られた。

出典：【田村義也】whoplus　http://web.nichigai.co.jp/

横尾忠則[1936-]

兵庫県出身。グラフィック・デザイナー、画家。1936年日本デザインセンターに入り、原色によるサイケデリックなポスターで話題をよぶ。油彩画、装幀、ビデオアート、著作など幅広く活躍。1956年画家に転向。

出典：【横尾忠則】日本人名大辞典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com/

菊地信義[1943-]

東京都出身。雑誌「アンアン」の創刊時にデザイナーとして参加。広告代理店、広告制作会社のアートディレクターを経て、1977年、ブック・デザイナーとしてデビュー。書店を“劇場”と考えた一風地味な装幀には、作家のファンも多い。

出典：【菊地信義】whoplus　http://web.nichigai.co.jp/

ブック・デザイナー	資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
祖父江慎	祖父江慎+コズフィッシュ	祖父江慎著	パイインターナショナル	2016	022/73

祖父江慎[1959-]

有限会社コズフィッシュ代表。愛知県出身。愛知県立旭丘高校美術科卒業。多摩美術大学中退。マンガを筆頭に純文学からエッセイ、人文・社会科学書、写真集、絵本、展覧会図録、映画パンフレット、雑誌と幅広いブック・デザインを手がける。

参考：『祖父江慎+コズフィッシュ』　祖父江慎著　パイインターナショナル　2016　022/73
『グラフィック・デザイナーの仕事(太陽レクチャー・ブック ; 001)』　祖父江慎ほか著　平凡社　2003　727/SO

小村雪岱	小村雪岱作品集	小村雪岱著	阿部出版	2018	721/288
	日本橋 (特選名著複刻全集近代文学館 / 名著複刻全集編集委員会編集)	泉鏡花著	日本近代文学館	1971	F2b/170/F17

小村雪岱(せったい)[1887-1940]

日本画家。埼玉県出身。本名泰助。1908年に東京美術学校を卒業。国華社に勤め、口絵の原画の模写の仕事をした。国華社に勤務のころより泉鏡花と親交を結び、鏡花の多くの作品の装幀を行う。また1919年より4年間、資生堂意匠部に勤務した。本の装幀や挿絵、また舞台や映画の美術考証や装置など、多方面に活躍した。

出典：【小村雪岱】　日本大百科全書(ニッポニカ)　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

山本タカト	草迷宮(Pan-exotica)	泉鏡花著 山本タカト画	エディシオン・トレヴィル	2014	913.6/642

山本タカト[1960-]

秋田県出身。東京造形大学を卒業。商業イラストレーションの仕事と並行しアート系ギャラリーで個展、企画展を開催。19世紀末美術、ウィーン分離派、明治の肉筆浮世絵などに連なる独自の耽美世界の追求に没頭、次第に商業イラストから遠ざかるようになる。耽美小説、時代小説などの装幀画・挿画を中心に活躍。

参考：『草迷宮（Pan-exotica）』　泉鏡花著 ; 山本タカト画　エディシオン・トレヴィル　2014　913.6/642

【電子ブック】 本づくりこれだけは —編集・デザイン・校正・DTP組版のノウハウ集— 新版(本の未来を考える=出版メディアパル no.37)	下村昭夫、荒瀬光治、大西寿男、高田信夫著	出版メディアパル	2020	収録データベース Maruzen eBook Library
【電子ブック】 詩的言語と絵画： ことばはイメージを表現できるか	今野真二著	勉誠出版	2017	収録データベース KinoDen
【電子ブック】 オビから読むブックガイド	竹内勝巳著	勉誠出版	2016	収録データベース KinoDen